

大田区自立支援協議会 第6回相談支援部会要旨

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第6回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和6年2月14日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>				
	神作 彩子	古怒田 幸子	椿山 通子	稗田 潤	山本 利寛
	赤羽 知映	大窪 恒	大類 信裕	貝森 はるみ	草野 牧子
	清野 弘子	筒井 寛孝	三浦 大輔	森田 友哉	
	オブザーバー：渡邊 伸幸、渡部 尚、西岡 寿恵				
	事務局：須藤 成政、酒井 史穂、阿部 朝奈				
	欠席者：宮澤 創、呉 ルミ、小嶋 愛斗、徳留 敦子、後藤 憲治、村田 亮、七尾 尚、高柳 茂泰、小川 幹夫、森田 好美、永谷 百恵				
(5) 内容・要旨	<p>1 連絡確認事項</p> <p>司会は須藤係長、神作部会長。書記は事務局と確認した。</p> <p>(1) 運営会議の報告</p> <p>各部会からの報告を行った。相談支援部会は連携について、医療との連携では医師からお話を伺いたい。</p> <p>地域支援部会はアンケートの実施、防災あんしん部会はまち歩きを実施、あんしんカフェも今後実施したいとのこと。本会は3月に実施する。内容は各部会の中間報告と意見交換。また、避難行動計画の作成について、障害福祉課から説明会があった。</p> <p>2 本日の検討課題</p> <p>神作部会長より</p> <p>令和6年度までが今期の自立支援協議会の任期になるので、現在は中間地点。今回は医師を招く予定だったが、日程調整が困難であった。来年度は医師との都合がつく日程を確保し、医師との座談会の実現を目指していく。</p> <p>(1) 中間報告の確認</p> <p>神作部会長より</p> <p>令和5,6年度の協議会の中間報告書案を確認。報告書はパワーポイントのスライド6枚。相談支援部会のテーマは「個別支援会議から地域課題を抽出し検討する」、「大田区の相談支援体制を検証する」。今期は「連携について考える」をテーマに委員からの提供事例で野中式事例検討をした。</p> <p>個別支援会議から見てきた地域課題を大きく分けると「外国籍ケースへの対応」、「緊急性はないが予防的な支援」、「いざというときの連携先」に分けられた。また、将来起こる連携についてどう対策していくかという視点もあった。</p>				

相談つながるカフェについて、多くの相談に関する機関が集まった。令和3、4年度は医療と障害福祉の連携がテーマだったが、今年度は、医療に加えて他機関との連携について検討してきた。当日は自己紹介の後に6グループに分かれて相談を受ける上で意識していること、悩みなどを話し合った。これから繋がるかもしれない方同士が顔を合わせて役割を把握したことで、予防的な支援へ備える機会となった。こちらは交流の機会として継続していけるよう、福祉人材育成・交流センターに引き継いだ。

次年度に向けて、医療と福祉の連携、他機関との連携を進めていくためには、相談支援としての機能を有機的に繋ぎ、第二層の更なる充実に向けて検討していく。また、将来の連携に備えて、日頃から関係機関との顔が見える関係づくり、お互いの業務の把握が大切だと考えている。

別紙には、相談つながるカフェの参加機関と主な事業内容について記載した。例えば、国際都市おおた協会、レガートおおたは外国籍の方の相談も受けているとのことで、相談カフェでの繋がりを活用していただければと思う。

以下報告書案に関する感想および意見

- 今年度は相談つながるカフェの印象が大きい。地域には支援機関に繋がりたいと思っても、連絡先が分からない方がいる。支援者が、各機関の業務内容や、適切な連絡先を知ることが大切。顔が見え、気軽に連絡できる繋がりが広がれば、連携先も広がっていくと考えた。
- 相談つながるカフェに参加し、様々な機関を知った。自身が参加している訪問介護事業所連絡会で相談支援事業所の方とも話した。ケアマネジャーはヘルパーが早く見つかるが、相談支援専門員は、1人見つけることも大変という話を聞いた。連携の大切さを実感し、深めていかなければならないと思った。様々な連絡会と障がいの分野が更に繋がっていくことが大切。
- 様々な視点から連携をされていてよいと思った。病院としての意見になるが、予防的な支援はありがたい。救急で運ばれてきた方は何も情報がなく、入院して初めて家族の状況が分かることがある。個人情報保護もあるので連携が難しいと思う。しかし、困難な状況にいる人ほど自分から相談ができない傾向がある。その点では相談のハードルは高い。支援が必要だが、自分から相談できない方に対してどう支援していくか、行政と民間の支援が必要。大田区では重層的な支援体制はありがたい。ワンストップの相談体制ができることは大切。様々な連携ができていくと区民にとっても安心できると思った。
- 相談職の考え方の傾向として、相談されることを待つ姿勢がある。複合的な課題がある世帯は子ども、高齢者、障がい、どの分野の支援者が課題をキャッチするかが大切。

また、相談を受けると、過去の経験から先が予想できることがある。同じようになれば良いと思い、支援者が相談者を急かしてしまうこともある。今

後起こるかもしれない課題に対しての予防は必要。横の繋がりがあれば、連携の心構えをしておけると思う。

- 予防、将来に向けてという言葉がキーワードになってきている。
- 相談つながるカフェでは各機関について知ることができた。連携先について知識を増やすことが必要。相談のあった方を連携先に繋げたあとも、本人の希望によって、対応できるようにしていくことも必要。

神作部会長より

この確認をもって中間報告の内容を皆様にご了解いただいたこととする。

(2) 連携について

神作部会長より

連携とは何か、第4回相談支援部会で意見をいただいた。連携が上手くいく時、上手くいかない時を考えると連携の課題が見えてくる。

連携とは（相談支援専門員の現認研修で多職種連携についての講義より。）

- ① 多元性への対応：見る角度の違いにより気づくこと
- ② 限界性への対応：単独で対応できないところを対応。
- ③ 可能性の拡大：抱え込み、過剰な支援が普通になり、支援の可能性を阻害している。
- ④ 相互補完性：各事業所の得意不得意をカバーする。
- ⑤ 付加性：問題解決力の向上

前提として、自らの専門性を身に着ける、コミュニケーション能力、自己理解と他者理解、チームをコーディネートする力、専門性とチーム力を高める、チームアプローチに必要な条件を維持することが必要。

<連携の構成要素>

- ① 目的の一致
- ② 複数の主体と役割
- ③ 役割と責任の相互確認
- ④ 情報の共有
- ⑤ 連続歴な協力関係過程

連携の困難さを検証していくと、この構成要素が欠けていることがある。関係性を構築していくためには、話す場と機会を重ねていくなど、相手の姿勢や価値観を知ることが必要。

「目指そうとする具体的な成果が共有されている」こと、「自分、他のメンバーができること、自分がほかのメンバーに期待すること、ほかのメンバーから自分に期待されていることにズレがないこと」、「相互理解を作る場があること」が連携がうまくいく構成要素となっている、

(3) 連携について個人ワーク

- ① 自分が連携をしたいと思っている相手（支援者）を思い浮かべて、シートに書く。
- ② 何のために連携をするのか具体的な成果を書く。
- ③ 自分と相手の役割、期待すること、期待されていることを書く。
- ④ 相互理解を作る場があるか

- 訪問診療のドクターを思い浮かべた。連携する上で、行政と地域包括支援センターは同じ方向性だが、ドクターのみ積極性を感じない。関係者の会議を行っているが、温度差を感じる。なかなかうまくいかないケースを想像した。

神作部会長より

自分が求めたことは相手の立場でできることなのか、やってもらえないことなのかを考える。相互理解の場があるとよい。

- 連携はどういう意味なのか、期待される役割は何かこのシートで考える。相手の立場と自分の立場は違うので、見極めが必要。相手ができないことを自分が求めているか考える。連携が上手くいっていないときは、自分の相手に対する「やってほしい」「なぜやってくれないのか」という感情が先走っていることがある。一度離れて俯瞰してみると立場、役割を考えていけると思う。

神作部会長より

今後医師と座談会をしたいと考えているが、医師に何を期待しているか、医師から何を期待されているのか。互いの役割がずれていないかを考え、相互理解を深めることがうまくいく連携に繋がっていくのではないか。

(4) 令和6年度活動についての検討

(ア) 令和6年度に取り組みたい内容について

- 新しいことではなく、医療との連携をより深めること、相談つながるカフェのような気兼ねなく集まれる関係づくりをしたい
- 相談つながるカフェがよかった。自己紹介で終わったので、テーマを絞ってグループワークをしていく時間を増やす。また、外に相談つながるカフェを発信していく。相談支援部会に参加している人だけでなく、内容を地域にも還元していきたい。部会を4地域庁舎で開催するのはどうか。高齢、障がいなど様々な分野があるので、実際に各機関に行ってみるのも良いか。
- 相談つながるカフェのような機会をもち、相談員の葛藤などから見えてくる課題をテーマに話し合いたい。
- 相談つながるカフェで得た情報を用いて場面に応じた具体的な個別の事例を用いて検証していく。ICTの使い方など。

- 相談支援の体制として、乳幼児期、学齢期の相談体制の支援強化。大人になってから支援に繋がった方で、乳幼児期、学齢期で既につまずいていたケースがある。障がい者就労した人について、何かあったときに相談できるところがあると良い。予防的な支援が必要。
- 医療との繋がり、連携をしている病院がどのくらいあるか検証。相談つながるカフェもよかった、出席した機関に中間報告を送るのはどうか。生活に関する内容、年金、後見人制度についてなどはどうか。今回カフェにいなかった機関も繋がれると良い。別紙の支援機関のリストが分かりやすい。地域住民に理解してもらうために、身近な課題を取り入れていく。一時的な関係である病院から家族の課題に介入していくのは難しいと感じている。
- 8050 問題で家族会が高齢化している。相談部会が何をやる場なのか話す機会を設けたい。勉強の場、つながる場、主軸として何をやる会なのか一度話し合いたい。
- 入院していた方が地域に帰ってきた時の支援、自立とはなにか、衣食住が足りていること、明日の目的があることということがあった。
- 地域生活支援拠点は全域をカバーできていなければ整備できているとは言えない。連絡会やご近所さんで話し合う場などもある。情報や意見がどこにあがり、フィードバックされるのか整備されておらず、もったいない。階層を作り、行政も介入していくシステム化が必要。

神作部会長より

会場を変えて公開相談支援部会とし、オブザーバーを呼んで実施するのもよいと考える。相談つながるカフェは評価いただけたが、ここで終わりではなく、人材センターに繋げたり、対象を絞ったりして具体的な検討をするのもよいか。医師との座談会については、一度で課題が解決できるわけではないと思うが、繋がる機会として設けていきたい。

第7回専門部会は5月8日（水）を予定している。作業部会は4月中に行う予定。

(イ) おおた障がい施策推進プランとの連動について

神作部会長より

自立支援協議会の代表者が推進会議に出席することとなっている、協議会としてプランを意識して活動することも一つである。

【次回日程】

専門部会：令和6年5月8日（水）9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室